

2 麦 類

(1) 要 旨

ア 作付面積

平成16年産4麦の子実用作付面積は27万2,400haで、前年産に比べて3,400ha(1%)減少した。(表2-1、図2-1)

イ 収穫量

平成16年産全国の4麦(小麦、二条大麦、六条大麦及び裸麦)の収穫量は105万9,000tで、前年産並みとなった。

また、田畑別の収穫量は、田作が56万9,200t(対前年比101%)、畑作は48万9,700t(同100%)となった。

4麦の主産県における被害率は、小麦17.7%、二条大麦23.3%、六条大麦25.4%、裸麦28.8%となった。

図2-1 4麦の作付面積及び収穫量の推移(全国)

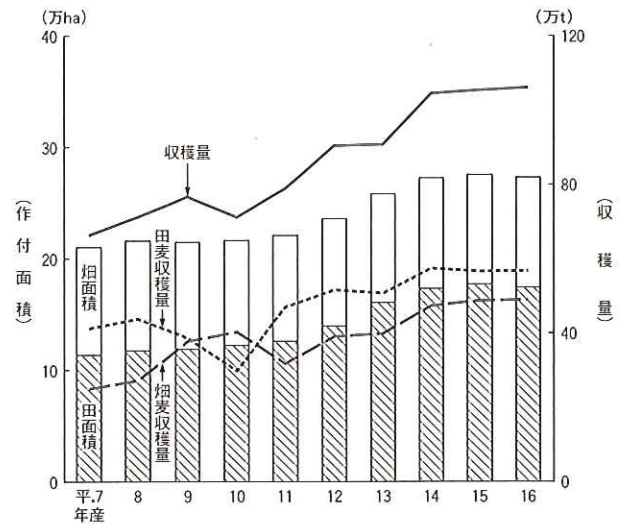


表2-1 平成16年産4麦の収穫量

区 分	平成16年産				前年産との比較					被害(主産県)		
	作付面積	10a当たり収	収 穫 量	作況指数 (対平年比)	作付面積		10a当たり収量		収 穫 量		被害率	被害率の 対平年差
					対 差	対 比	対 比	対 比	対 差	対 比		
	100ha	kg	100t		100ha	%	%	100t	%	%	ポイント	
全 国	4麦計	2 724	...	10 590	...	△34	99	...	50	100
	小麦	2 126	405	8 603	109	4	100	100	44	101	17.7	△ 3.0
	二条大麦	372	355	1 319	96	△23	94	114	86	107	23.3	5.1
	六条大麦	176	291	512	86	△ 6	97	93	△56	90	25.4	8.5
	裸 麦	51	306	155	87	△ 8	86	98	△29	84	28.8	10.9
北 海 道	麦 計	1 163	...	5 669	...	12	101	...	11	100
	小麦	1 140	490	5 582	123	13	101	99	7	100	11.7	△ 8.4
	二条大麦	24	366	87	96	0	100	104	4	105	19.3	2.6
都 府 県	4麦計	1 561	...	4 920	...	△46	97	...	34	101
	小麦	986	306	3 021	90	△ 9	99	102	37	101	25.8	10.2
	二条大麦	318	354	1 232	96	△23	94	114	82	107	23.6	5.3
	六条大麦	176	291	512	86	△ 6	97	93	△56	90	25.4	8.5
	裸 麦	51	306	155	87	△ 8	86	98	△29	84	28.8	10.9

- 注: 1 この統計表は、子実用である。
 2 被害の主産県とは、麦種別に前年産の作付面積が500ha以上の県をいう。
 3 被害率は、 $\frac{\text{被害量}}{\text{平年収量}} \times 100$ である。
 4 被害率の対平年差は、昭和54年以降の異常値除外平均被害率との差である。

表 2-2 平成16年産 4 麦の収穫量 (全国農業地域別)

全 国 農 業 地 域	4 麦 計		小 麦				二 条 大 麦				六 条 大 麦				裸 麦			
	作付面積	収穫量	作付面積	10 a 当たり収量		作況指数	作付面積	10 a 当たり収量		作況指数	作付面積	10 a 当たり収量		作況指数	作付面積	10 a 当たり収量		作況指数
				100ha	100t			100ha	kg			100t	100ha			kg	100t	
全 国	2 724	10 590	2 126	405	8 603	109	372	355	1 319	96	176	291	512	86	51	306	155	87
北 海 道	1 163	5 669	1 140	490	5 582	123	24	366	87	96	-	-	-	-	-	-	-	-
都 府 県	1 561	4 920	986	306	3 021	90	348	354	1 232	96	176	291	512	86	51	306	155	87
東 北	108	242	90	212	191	84	0	x	x	...	18	285	51	100	-	-	-	-
北 陸	82	250	0	x	x	...	0	158	0	...	82	305	249	101	-	-	-	-
関東・東山	475	1 448	272	303	825	75	135	320	432	80	68	281	190	71	0	270	1	...
東 海	153	x	151	252	380	82	0	200	0	...	2	245	6	...	0	x	x	...
近 畿	103	243	94	236	221	84	1	249	4	...	6	247	16	...	1	279	3	...
中 国	44	145	13	287	38	91	28	356	101	88	1	247	1	...	2	234	4	...
四 国	46	150	14	314	44	80	1	264	1	...	-	-	-	-	32	333	105	88
九 州	550	2 056	352	375	1 321	110	182	381	694	110	0	x	x	...	16	265	41	86
沖 縄	0	0	0	184	0	...	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-

注：子実用である。

(2) 解 説

ア 小麦

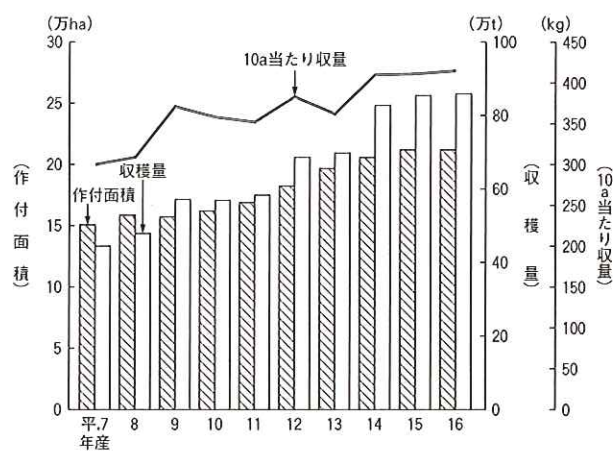
(ア) 作付面積

小麦の作付面積は21万2,600haで、前年産並みとなった。

これを、北海道、都府県別にみると、北海道は11万4,000haで前年産に比べて1,300ha(1%)増加、都府県は9万8,600haで前年産に比べて900ha(1%)減少した。

これは、北海道では製パン用の需要の高まりなどにより増加、都府県では主に関東・東山及び東海で収穫期の天候不順により品質が低下しやすいことなどから他作物へ転換されたためである。(図2-2)

図 2-2 小麦の作付面積、収穫量及び10 a 当たり収量の推移 (全国)



(イ) 10 a 当たり収量

全国平均の10 a 当たり収量は405kgで、作柄の良好であった前年産並みとなった。

なお、作況指数は前年産と同じ109となった。(表2-2)

ア 北海道

10 a 当たり収量は490kgで作柄の良かった前年産を5 kg(1%)下回った。

これは、出穂期以降の高温により登熟が急速に進み、粒の肥大・充実が前年産よりやや抑制されたことによるが、作柄は前年産に引き続き良好であった。

なお、作況指数は前年産を2ポイント下回る123となった。

b 都府県

10 a 当たり収量は306kgで、作柄の悪かった前年産を6 kg (2%) 上回るにとどまった。

これは、九州地域でおおむね天候に恵まれたため良好な作柄となったものの、関東・東山地域等では、は種期の降雨による湿害の発生や12月中旬から3月上旬の少雨による生育の抑制、登熟期の天候不順の影響があり作柄が悪化したことによる。

なお、作況指数は前年産を2ポイント上回る90となった。

(ウ) 収穫量

収穫量は86万300tで、前年産に比べて4,400t (1%) 増加した。

このうち、北海道の収穫量は55万8,200tで、作付面積は前年産に比べて増加したものの、10 a 当たり収量が前年産を下回ったため、前年産並みとなった。

一方、都府県の収穫量は30万2,100tで、作付面積は減少したものの、10 a 当たり収量が前年産を上回ったため、前年産に比べて3,700t (1%) 増加した。

図2-3 平成16年産小麦の都道府県作況指数



図2-4 平成16年産麦作期間の半月別気象経過(帯広)

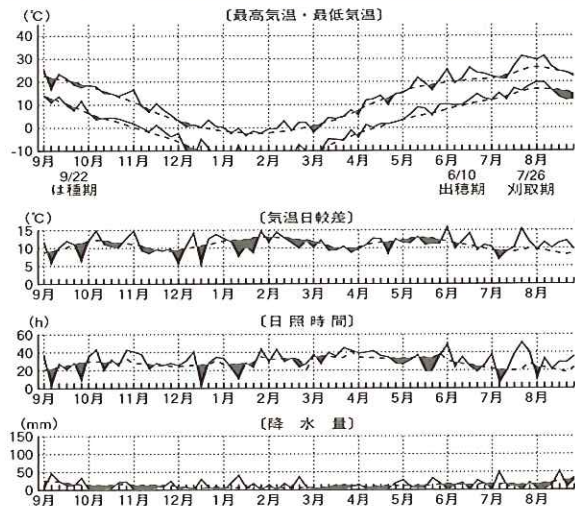
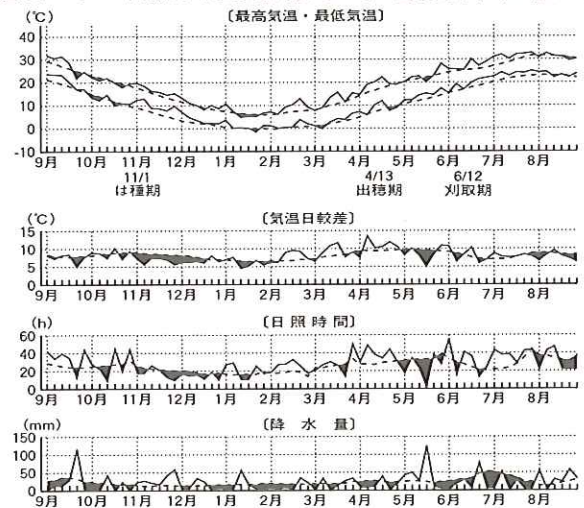


図2-5 平成16年産麦作期間の半月別気象経過(彦根)



イ 二条大麦

(ア) 作付面積

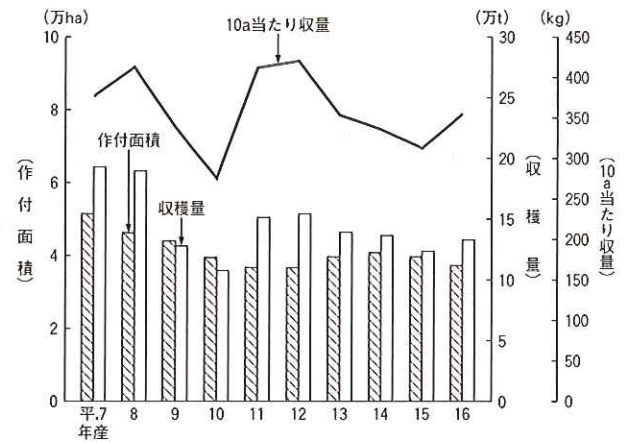
二条大麦の作付面積は3万7,200haで、前年産に比べて2,300ha(6%)減少した。

これを、北海道、都府県別にみると、北海道は2,380haで前年産並みであったものの、都府県は3万4,800haで前年産に比べて2,300ha(6%)減少した。

これは、主に九州において小麦の作付推進により小麦へ転換されたためである。

(図2-6)

図2-6 二条大麦の作付面積、収穫量及び10a当たり収量の推移(全国)



(イ) 10a 当たり収量

全国平均の10a 当たり収量は355kgで前年産を43kg(14%)上回った。

なお、作況指数は前年産を12ポイント上回る96となった。(表2-1)

a 北海道

10a 当たり収量は366kgで、低温・少雨の影響等により作柄の悪かった前年産を15kg(4%)上回った。

なお、作況指数は前年産を5ポイント上回る96となった。

b 都府県

10a 当たり収量は354kgで、前年産を44kg(14%)上回った。

これは、作付の多い九州地域で、生育全般にわたりおおむね天候に恵まれ、作柄が良好であったためである。一方、関東・東山地域等では、は種期の降雨による湿害の発生や12月中旬から3月上旬の少雨による発育の抑制、登熟期の天候不順の影響がみられた。

なお、作況指数は前年産を12ポイント上回る96となった。

(ウ) 収穫量

収穫量は13万1,900tで、前年産に比べて8,600t(7%)増加した。

これは、作付面積は減少したものの、10a 当たり収量が前年産を上回ったためである。

図2-7 平成16年産二条大麦の都道府県作況指数



注:「…」は不詳、「-」は作付のない都道府県である。

図2-8 平成16年産麦作期間の半月別気象経過(宇都宮)

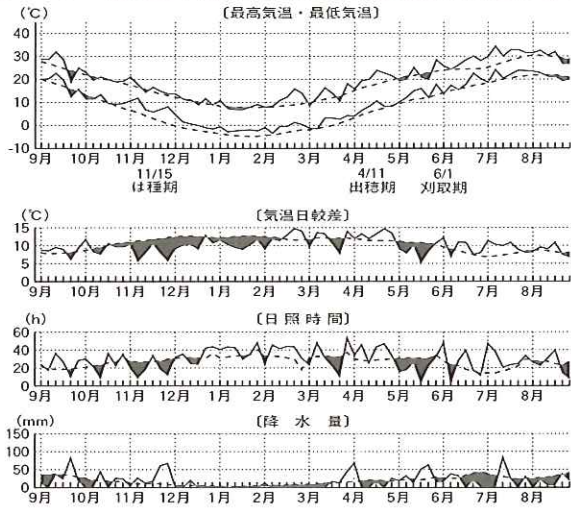
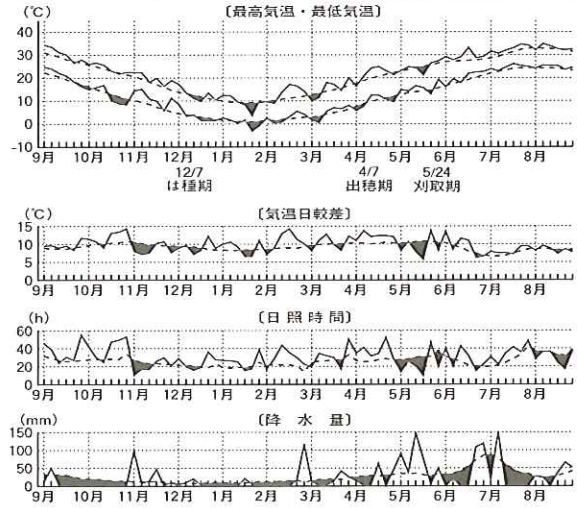


図2-9 平成16年産麦作期間の半月別気象経過(佐賀)



ウ 六条大麦

(ア) 作付面積

六条大麦の作付面積は1万7,600haで、前年産に比べて600ha(3%)減少した。

これは、主に前年の冷夏等の影響による麦茶需要の低下や品質基準の強化により品質の確保が難しくなったことなどから、他麦種へ転換されたためである。(図2-11)

(イ) 10a 当たり収量

10a 当たり収量は291kgで前年産を21kg(7%) 下回った。

これは、主産県の福井県で、おおむね天候に恵まれ生育は順調であったものの、関東・東山地域等で、は種期の降雨による湿害の発生や12月中旬から3月上旬の少雨による生育の抑制、登熟期の天候不順の影響がみられたためである。

なお、作況指数は前年産を4ポイント下回る86となった。(表2-1)

図2-10 六条大麦の作付面積、収穫量及び10a 当たり収量の推移(全国)

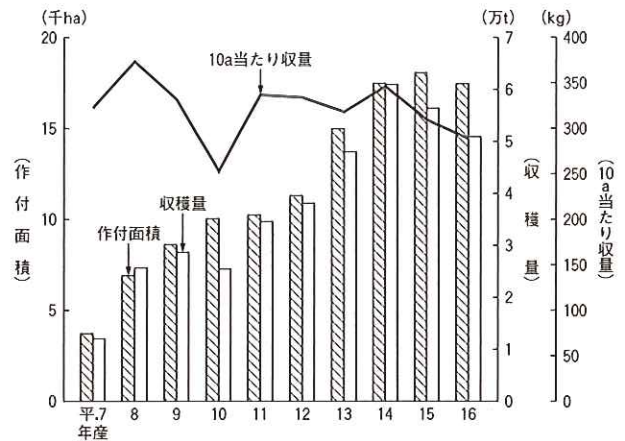
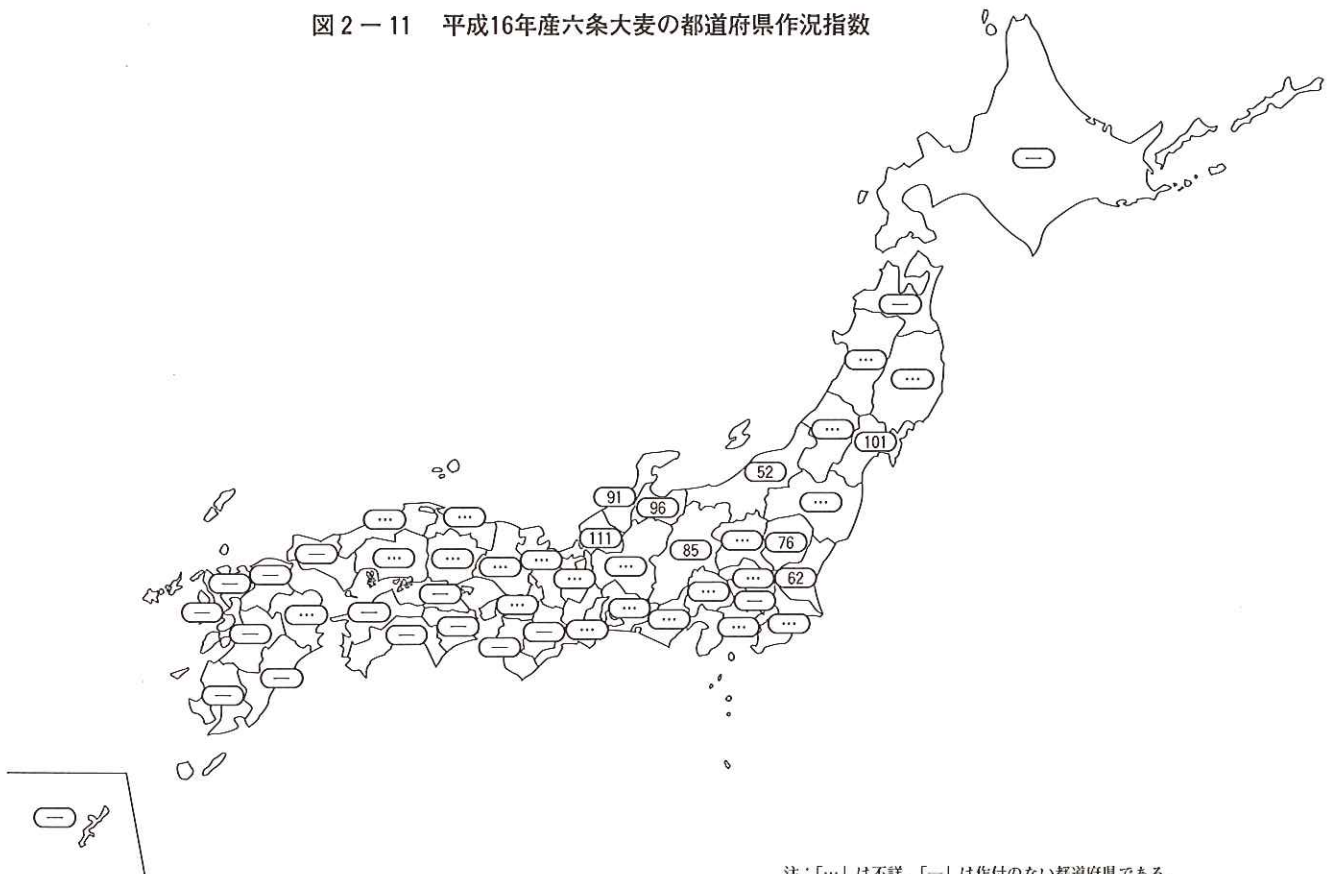


図2-11 平成16年産六条大麦の都道府県作況指数



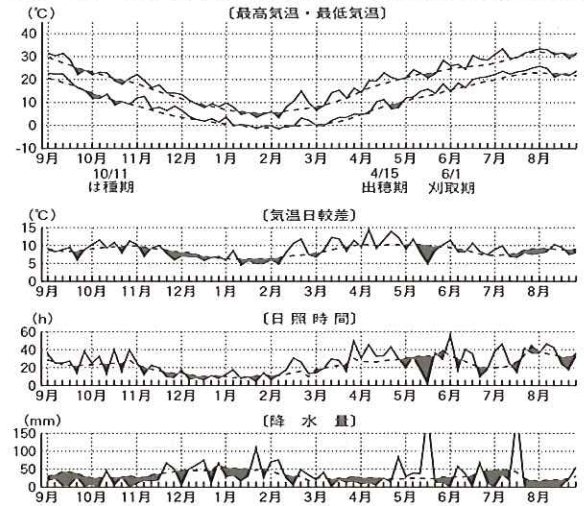
注:「…」は不詳、「-」は作付のない都道府県である。

(ウ) 収穫量

収穫量は5万1,200tで、前年産に比べて5,600t(10%)減少した。

これは、作付面積が減少したことに加え、10a当たり収量も前年産を下回ったためである。

図2-12 平成16年産麦作期間の半旬別気象経過(福井)



エ 裸麦

(ア) 作付面積

裸麦の作付面積は5,060haで、前年産に比べて840ha(14%)減少した。

これは、主に近年の作柄不良、は種期の天候不順による作付けの中止等があったためである。

(図2-14)

(イ) 10a当たり収量

10a当たり収量は306kgで、作柄が悪かった前年産を更に6kg(2%)下回った。

これは、四国地域等で、は種期の降雨による湿害の発生や登熟期の天候不順の影響があったためである。

なお、作況指数は前年産を1ポイント下回る87となった。(表2-1)

図2-13 平成16年産裸麦の都道府県作況指数



注:「…」は不詳、「-」は作付のない都道府県である。

(ウ) 収穫量

収穫量は1万5,500tで、前年産に比べて2,900t（16%）減少した。

これは、作付面積が減少したことに加え、10a当たり収量も前年産を下回ったためである。

図2-14 裸麦の作付面積、収穫量及び10a当たり収量の推移（全国）

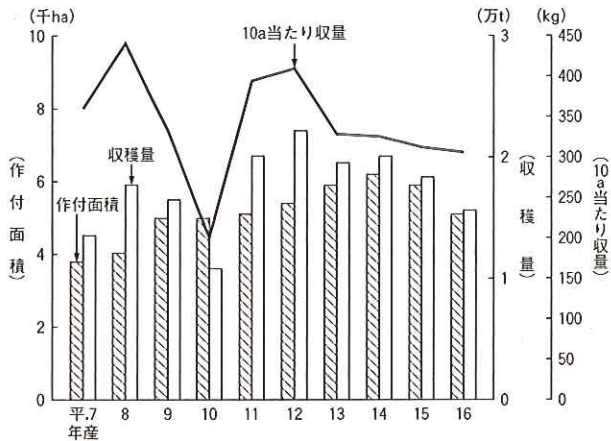
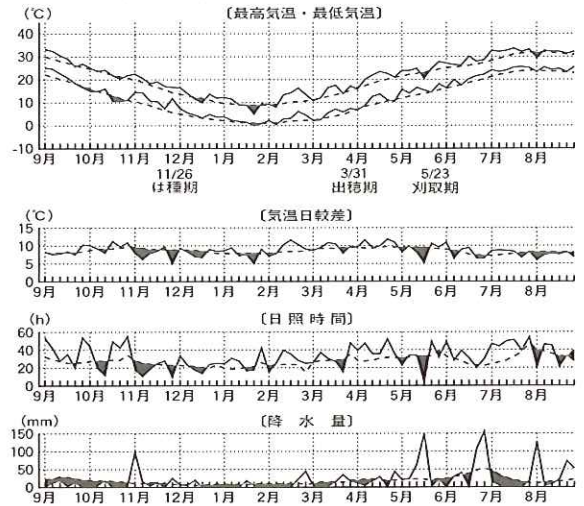


図2-15 平成16年産麦作期間の半月別気象経過（松山）



オ 被害の発生

(ア) 主産県（小麦は25道県、二条大麦は11道県、六条大麦は8県、裸麦は3県）

主産県全体における被害量は、小麦13万8,800t、二条大麦3万1,500t、六条大麦1万3400t及び裸麦4,170tであった。

これを被害率で見ると、小麦は17.7%で平年を3.0ポイント下回ったが、二条大麦は23.3%、六条大麦は25.4%、裸麦は28.8%で、それぞれ平年を5.1、8.5、10.9ポイント上回った。

被害の種類としては、4麦とも湿害の発生が主な要因で、小麦においては、冬期間の少雨により干害も発生している。（表2-3、4）

(イ) 北海道

北海道における被害量は、小麦5万3,300t、二条大麦1,750tであった。

これを被害率で見ると、小麦は11.7%で平年を8.4ポイント下回り、二条大麦は19.3%で平年を2.6ポイント上回った。

小麦の被害量合計の内訳をみると、気象被害が4万8,700tで被害量全体の91.4%を占めている。

(ウ) 都府県

a 小麦

都府県（北海道を除く主産県。以下同じ。）における被害量は8万5,500tであった。

これを被害率で見ると25.8%で、平年を10.2ポイント上回った。

被害量の内訳をみると、気象被害が7万7,300tで被害量全体の90.4%、病害が6,540tで同7.6%を占めている。

b 二条大麦

都府県における被害量は2万9,700 tであった。

これを被害率で見ると23.6%で、平年を5.3ポイント上回った。被害量の内訳をみると、気象被害が2万7,800 tで被害量全体の93.6%、病害が1,670 tで同5.6%を占めている。

c 六条大麦

都府県における被害量は1万3,400 tであった。

これを被害率で見ると25.4%で、平年を8.5ポイント上回った。被害量の内訳をみると、気象被害が1万2,500 tで被害量全体の93.3%、病害が599 tで同4.5%を占めている。

d 裸麦

都府県における被害量は4,170 tであった。

これを被害率で見ると28.8%で、平年を10.9ポイント上回った。被害量の内訳をみると、気象被害が3,740 tで被害量全体の89.7%、病害が360 tで同8.6%を占めている。

表2-3 平成16年産4麦の被害

区 分	被害量 (総数)	被 害 率							
		総 数		気 象 被 害		病 害		虫 害	
		本 年	対平年差	本 年	対平年差	本 年	対平年差	本 年	対平年差
t	%	ポイント	%	ポイント	%	ポイント	%	ポイント	
小 麦									
主 産 県	138 800	17.7	△ 3.0	16.0	△ 2.7	1.4	△ 0.2	0.1	△ 0.1
北 海 道	53 300	11.7	△ 8.4	10.7	△ 7.9	0.9	△ 0.4	0.0	△ 0.2
都 府 県	85 500	25.8	10.2	23.3	9.6	2.0	0.5	0.1	0.0
二 条 大 麦									
主 産 県	31 500	23.3	5.1	21.9	6.9	1.2	△ 1.8	0.0	△ 0.1
北 海 道	1 750	19.3	2.6	19.3	2.7	0.0	0.0	-	△ 0.1
都 府 県	29 700	23.6	5.3	22.1	7.2	1.3	△ 1.9	0.0	△ 0.1
六 条 大 麦									
主 産 県	13 400	25.4	8.5	23.7	8.7	1.1	△ 0.5	0.1	0.1
北 海 道	-	-	-	-	-	-	-	-	-
都 府 県	13 400	25.4	8.5	23.7	8.7	1.1	△ 0.5	0.1	0.1
裸 麦									
主 産 県	4 170	28.8	10.9	25.8	9.9	2.5	0.9	0.0	△ 0.1
北 海 道	-	-	-	-	-	-	-	-	-
都 府 県	4 170	28.8	10.9	25.8	9.9	2.5	0.9	0.0	△ 0.1

表2-4 平成16年産4麦の被害（主産県・被害種類別）

被害種類	被害面積 ha	被害量 t	被害面積率		被害率		
			本年 %	対前年差 ポイント	本年 %	対前年差 ポイント	対前年差 ポイント
小麦	295 500	138 800	140.0	10.5	17.7	△ 3.0	△ 0.5
総気象被害	244 800	126 000	116.0	13.1	16.0	△ 2.7	△ 0.5
雪風凍湿干そ	15 000	6 000	7.1	△ 2.7	0.8	△ 1.5	△ 1.0
水霜	45 000	16 600	21.3	1.5	2.1	△ 3.4	△ 0.1
の	3 550	1 760	1.7	△ 4.3	0.2	△ 0.7	0.1
病害	56 400	42 400	26.7	2.7	5.4	0.6	△ 2.5
その他	90 500	43 700	42.9	22.4	5.6	3.0	1.8
び	34 300	15 500	16.3	△ 6.5	2.0	△ 0.6	1.3
病	38 800	10 700	18.4	△ 2.9	1.4	△ 0.2	△ 0.1
さ	2 460	270	1.2	△ 1.2	0.0	△ 0.1	0.0
白	3 140	477	1.5	△ 2.5	0.1	△ 0.1	0.0
赤	17 100	3 210	8.1	△ 1.6	0.4	△ 0.2	△ 0.6
そ	16 100	6 710	7.6	2.4	0.9	0.2	0.5
虫	3 040	577	1.4	△ 1.0	0.1	△ 0.1	0.0
その他	8 850	1 500	4.2	1.3	0.2	0.0	0.0
二条大麦	58 900	31 500	158.3	25.8	23.3	5.1	△ 7.2
総気象被害	48 200	29 600	129.6	40.3	21.9	6.9	△ 5.2
雪風凍湿干そ	80	10	0.2	△ 0.4	0.0	△ 0.1	0.0
水霜	7 170	3 570	19.3	△ 0.4	2.6	△ 0.4	△ 0.2
の	193	58	0.5	△ 12.0	0.0	△ 1.8	△ 0.2
病害	22 300	16 300	59.9	14.5	12.1	3.2	△ 10.2
その他	6 910	3 950	18.6	14.0	2.9	2.3	1.4
び	11 500	5 690	30.9	24.4	4.2	3.6	3.8
病	8 230	1 670	22.1	△ 16.4	1.2	△ 1.8	△ 2.1
さ	68	12	0.2	△ 1.6	0.0	△ 0.1	0.0
白	246	41	0.7	△ 4.0	0.0	△ 0.3	△ 0.1
赤	4 100	429	11.0	△ 1.6	0.3	△ 0.3	△ 1.3
そ	3 820	1 190	10.3	△ 9.1	0.9	△ 1.1	△ 0.7
虫	904	38	2.4	0.2	0.0	△ 0.1	0.0
その他	1 530	176	4.1	1.6	0.1	0.0	0.0
六条大麦	21 800	13 400	138.9	46.9	25.4	8.5	6.8
総気象被害	19 000	12 500	121.0	52.0	23.7	8.7	7.1
雪風凍湿干そ	84	29	0.5	△ 4.1	0.1	△ 0.9	0.0
水霜	732	449	4.7	△ 3.9	0.9	△ 0.7	△ 0.3
の	465	71	3.0	△ 2.9	0.1	△ 0.8	△ 0.7
病害	7 170	5 200	45.7	9.5	9.9	0.0	△ 3.0
その他	1 010	384	6.4	1.1	0.7	△ 0.1	0.5
び	9 540	6 410	60.8	52.4	12.2	11.4	10.9
病	1 620	599	10.3	△ 5.8	1.1	△ 0.5	△ 0.4
さ	198	40	1.3	△ 0.1	0.1	0.0	0.0
白	139	19	0.9	△ 1.2	0.0	△ 0.1	0.0
赤	708	148	4.5	2.0	0.3	0.1	0.2
そ	572	392	3.6	△ 6.5	0.7	△ 0.5	△ 0.5
虫	160	31	1.0	△ 0.1	0.1	0.1	0.1
その他	1 010	257	6.4	0.6	0.5	0.2	△ 0.1
裸麦	5 720	4 170	145.5	20.5	28.8	10.9	4.8
総気象被害	4 040	3 740	102.8	15.3	25.8	9.9	4.2
雪風凍湿干そ	-	-	-	-	-	0.0	-
水霜	1 480	885	37.7	10.4	6.1	1.9	△ 3.7
の	-	-	-	-	-	△ 0.5	0.0
病害	2 560	2 850	65.1	14.5	19.7	8.9	7.9
その他	0	0	0.0	△ 2.8	0.0	△ 0.3	0.0
び	892	360	22.7	△ 4.9	2.5	0.9	0.6
病	19	2	0.5	△ 1.9	0.0	△ 0.1	0.0
さ	18	3	0.5	△ 3.6	0.0	△ 0.2	0.0
白	463	305	11.8	△ 2.0	2.1	1.1	0.5
赤	392	50	10.0	2.7	0.3	0.0	△ 0.1
そ	158	7	4.0	0.1	0.0	△ 0.1	0.0
虫	630	66	16.0	10.0	0.5	0.2	0.0